

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八幡中央高等学校 定時制課程

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	本校のスクールミッションに基づき、スクールポリシーを踏まえた教育実践により、豊かな人間性を身につけ、自己の力で未来を切り拓き、地域や社会に広く信頼され、貢献できる生徒を育成する。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
新型コロナウイルス感染症により教育計画の変更が必要となったが、指導内容や学校行事の工夫や生徒への個別対応に努めることで一定の目標は達成できた。 定時制に進学する生徒は、個別の教育支援を必要とする場合が多く、その数は増加傾向にある。 家庭状況や学習状況、発達段階などを踏まえ、外部との連携や教員間の密な情報共有、職員研修を行い、就学保障及び進路保障の充実を目指す。	1 きめ細やかな学習指導	基礎基本から学び直しを通じて学習意欲を喚起し、達成感を得ることができる学習指導の充実を図る。			
	2 観点別学習評価の充実	思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を設けた上で、一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。			
	3 安心して学ぶ環境づくり	多様性を認め、自他を尊重し、いじめや差別のない安心して学ぶことができる教育環境の保全に努める。			
	4 豊かな人間性の向上	生徒主体の学校行事や体育的・文化的活動への積極的な参加を通じて自己肯定感や共感的人間関係を高める。			
	5 キャリア発達の支援	発達段階に応じたキャリア教育を行い、主体的な進路選択を支援し、社会的自立と社会参画の力を育む。			
	6 教員のICTスキルの向上	外部人材を活用しながら、授業でのICT活用促進を図り「わかる授業」の展開を目指す。また、生徒に情報処理検定等の受検を促す。			
		A			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務	授業規律を確立し、効果ある授業を目指す。	教材の準備、机上の整理を徹底させ、授業に集中できる教室づくりに努める。 出席や成績の状況等、家庭・保護者と連絡をとり、連携して就学・修学に努める。	B A	B	・基礎基本から学ぶように教材を精査し、一人一人を大切に授業に努める。クラスの人数も増えつつあるので、学びやすい環境を整えていく。 ・講義形式の授業ではなくすべての生徒が参加しやすい授業を工夫していく。また、ICTを取り入れた授業を行い、生徒に興味・関心を持たせるように工夫する。
	基礎・基本の学力を定着させるとともに、生徒のニーズに応じた学力の伸長を図る。	授業の内容・方法を工夫し、生徒の実態に応じた授業づくりに努める。 すべての授業で、生徒が主体的に探究できるような授業づくりを目指す。	B B	B	
生徒指導	基本的生活習慣の確立を目標にした生徒指導に心がけ、安心して楽しく学べる学習環境を整備する。	登下校時の声かけを通して、生徒と教職員の相互理解に努める。 教職員間の情報交換を密に行い、いじめや差別を許さない環境作りに努める。	B A	A	・いじめに特化したアンケート、学校生活アンケートを通して、担任を中心とした細やかな対応に努める。 ・学校行事を計画的に立案し活性化させる事を通して、集団の魅力を実感できるように努める。
	生徒会活動を通して、学校行事の企画力を育成すると共に豊かな人間性の涵養を目指す。	学校行事の活性化を通して、生徒の自尊意識の向上を目指す。 生徒会執行部生徒の自主性を育成し、生徒に寄り添う適切なアドバイスを心がける。	A A	A	
進路指導	生徒の進路実現に向けた意識の向上を図り、主体的な自己実現力を育成する。	生徒の情報交換を積極的に行い、外部機関と連携した支援を継続的に行う。 資格試験の受験を促すとともに、受験生の合格率を高める。 生徒の発達段階に応じた進路講演会や進路ガイダンスなどを実施する。	A A A	A	・年度ごとに就職移行支援事業者や専門学校、卒業生の講話等進路ガイダンスを実施してきたが、今後は企業を招いた招致の講演を充実させていきたい。 ・総合的な探究において年間指導計画を担任の負担にならないように企画する。実施する時間を連続してできるように実感割りを工夫する
	在校生の就業機会を確保・促進する。	進路学習の履歴となるキャリアパスポートを充実させ、生徒の進路意識を高める。 アルバイト情報を提供するなどの就業意識を高める取組を継続する。	A A	A	
研修・情報	校内外の研修による教職員の資質・能力の向上を図る。	電子黒板やChromebook等のICT機器を効果的に活用できるよう研修等を行う。 他の分掌とも連携をとり、計画的に研修の案内・実施をする。	B A	B	・校内研修は全職員が参加できるように実施時間の設定を見直す。 ・生徒が使用するChromebookを固定し、授業等でのICT機器の活用が円滑に進むようにする。
	電子黒板やChromebook等を含むICT機器の活用の推進を図る。	ICT支援員と連携し、授業等でのICT機器の活用推進を図る。 すべての生徒への連絡手段としてClassroomを活用する。	B A	B	
庶務・図書	学校環境の整備・充実を図る。	全日制・定時制との施設共用を円滑に行い、教育活動の充実を図る。 奨学金等の分かりやすい案内に努め、就学並びに修学の保障に努める。	B A	B	・全日制との施設共用をより円滑に進めるために、全日制と定期的に連絡会を行う。 ・生徒の読書活動増進のために購入図書希望調査を実施したり、公共の図書館を利用させたりする。
	生徒の読書活動増進と図書館利用の普及を図る。	購入図書希望調査を学期に1回行うとともに、新刊案内を行う。 生徒が本に触れやすい取組を検討する。	B B	B	
保健	心身の健康に関する指導の充実を図る。	健康診断等を通して、自身の健康に関心をもち自己管理しようとする態度の育成を図る。 「ほけんだより」等を定期的に発行し、心身の健康への意識を高める。	B A	A	・保健委員会の活用や保健行事の運営の中での生徒参加を積極的に行ない、生徒が主体的に健康に関心を持つ機会を提供できるようにする。 ・教員間での情報共有、SCやSSW等専門機関との協力体制を引き続き継続する。また、相談活動に関する職員研修の機会を増やし、職員が生徒対応力の充実を図る。
	健康相談活動の充実を図る。	生徒の安心・安全につながるよう、生徒のプライバシーに配慮しながら情報交換を積極的に行う。 SCやSSW等と連携した上で、必要な教育的支援を継続して行う。 各分掌と連携し、生徒が安心して相談できる環境づくりに努める。	A A A	A	
人権同和教育	「安心して通える学校」づくりを促進する。	生徒の人権が守られる教育環境の整備に努める。 自己肯定感や自尊感情を育て、人権意識の涵養を目指す。 特設授業にかぎらず、あらゆる教育活動を通して生徒の人権感覚を育む。	A B B	B	・人権・同和教育特設授業の内容や教材の再検討を通じ、生徒の人権意識を育む教育内容を模索するとともに、互いに尊重し合える学校環境の整備をめざす。 ・教員の校外研修の機会を確保するための情報提供や案内を迅速に行い、その研修内容について報告会を通じて還元することで、教員の人権感覚の涵養に努める。
	人権教育に関する積極的な職員研修を実施する。	人権教育に関する各種研修会への職員の積極的な参加を促す。 人権に関する研修会の情報の周知を行い、職員が参加できる環境を整える。 研修成果を職員間で共有し、人権感覚の涵養に努める。	A A B	A	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	・授業規律の確立には、時間と労力がかかると思うが、今後も粘り強く指導を行っていただき、生徒の学習機会の保障と学力の充実をお願いしたい。
A	・運動会の実施や部活動に加入する生徒が増えるなど、今までとは異なる定時制の様子が窺える。それぞれに次年度の目標が明確にされており実現に向けて取り組んで欲しい。
A	・定時制の生徒の進路については、就職だけでなく短大や専門学校への進学等もあるが、経済的に困難な生徒もいる。奨学金の情報提供等によって生徒の多様な進路を確保して欲しい。
B	・ICTの活用が行われ学校の授業の様子も変わってきたようだ。端末を活用した授業を引き続きお願いすると共に1人1台を早期に実現して欲しい。
B	・高校生の読書率の低下に対して、図書館で実にも本を読んだり借りたりしていることを知った。こういった取組を引き続き実施して欲しい。
A	・定時制の生徒の抱える問題について保健室の利用状況から知ることができた。これらを踏まえて生徒の「心身の健康に関する指導」に尽力してもらいたい。
A	・LGBTや社会的少数者の人権等が社会的関心事となっている。学校教育において、生徒の人権感覚を育てる取組を行って欲しい。
評価項目以外のものに関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒が在籍する定時制課程において、それぞれのニーズを把握し応えていくことが求められている。可能な限りで個に応じた対応をお願いしたい。 	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・生徒の学習ニーズに応える学習環境を提供できるよう、1人1台端末の積極的活用や授業規律の確立によって学習内容の定着等学習活動の充実を目指す。
- ・学校行事等学習活動以外の教育活動を充実する。特に学校行事については運動会をはじめとして生徒会主体に取り組みせ、自己肯定感や達成感の育成に繋げる。
- ・部活動の活性化を促す。生徒数の増加に伴いチームスポーツが可能になった。「参加をよびかける部活動」から「公式戦出場を目指す」活動へのレベルアップを目指す。
- ・特別な支援を必要とする生徒について、SCを含めた全職員で情報共有を行う。また、必要に応じて外部機関との情報共有を行い連携協働によって適切な支援体制を構築する。
- ・社会的経験を促し社会に適応していく力を育成する。アルバイトやボランティア活動など学校外の教育活動の機会を捉え、社会性の育成に繋げる。

- ・多様な生徒が在籍する定時制課程において、それぞれのニーズを把握し応えていくことが求められている。可能な限りで個に応じた対応をお願いしたい。